

江戸時代、薩摩藩は藩内を百十三の外城(郷)と呼ばれる行政区画に分け藩内を治めました。外城では、行政庁である御飯屋を中心として麓と呼ばれる武士団の居住区があり、さらに町家・村落と続いています。知覧もこの麓の一つで、御飯屋の前には城馬場が通り、これに直行して本馬場が通されています。馬場とは大路をいい、この馬場を挟んで麓の武家屋敷が形成され、随所に小路が配されています。知覧麓が今に見られるような姿に整備されたのは、十八世紀の中頃であると伝わっています。

伝統的建造物群保存地区は、本馬場を中心とした東西約九〇メートル、南北約二〇〇メートルの範囲です。屈折する道路に沿い、石垣と生垣を連ねて屋敷地を区画し、道路から後退して、腕木門や石柱門を開く姿は優れた景観を見せています。主屋と馬場との間には枯山水様式などの庭園が造られ、これらの庭園のうち、特に価値のあるものは「知覧麓庭園」として国の文化財として指定されています。

知覧伝統的建造物群保存地区は、鹿児島県に残る麓の代表的なもので旧観を良く伝えています。



特攻平和会館を訪ねる前に、約2キロ手前に、建造物保存地区がある。
過去の点のつながりが現在、現在の点のつながりが未来。歴史の大切さ、おんこちしん温故知新。
城下町、門前町、宿場町。士農工商、黒船来航、そんな時代があった。
上記の文言から、歴史を推理するのも勉強になる。

